

教 区 報

第110号 2018年12月

日本ハリストス正教会教団 東日本主教々区

発行：東日本主教々区宗務局

〒980-0021 仙台市青葉区中央3丁目4番20号

電話 022-225-2744 fax 022-224-3080

振替 02200-2-30428「東日本主教々区宗務局」



<http://www.orthodox-sendai.com/>
orthodox@hyper.ocn.ne.jp

ハリストスは人々の救いのため、聖神の働きによって生神女マリヤの胎に宿り、人の子としてベツレヘムの家畜小屋（洞窟）に降誕された。御子は選ばれた両親に御身をゆだね、小さな胸で呼吸し、飲み、食べて、手足を動かし家族の中で育まれた。私たちと同じように生活され成長された。

今日、救主の降誕を祝う信徒の内にも奥密に御子は生まれ、同時にその人と共に成長する。この不思議な表現は古代の教会によってなされ「洗礼によってその人の内奥にハリストスは生まれたり」と教えた。実に洗礼はその人における主の降誕であり、信徒は信仰生活を送り励むことによって

主の降誕祭



至高きには光栄神に歸し、
地には平安降り、
人には恵臨めり

—ルカ伝2章14節—

日々成長させられていくのである。

人はその救いの道程にあっても悲痛の淵に屈み、絶望のなかに沈淪し苦痛に喘ぐ時がある。それはあなたの中におり、あなたを成長させ、共に成長される方を見失っているのである。

主は遡る人の中に在る。主の与える福は世に満ちていても、一人ひとりの中に謙遜な心が足りなければその福からは遠い。光栄を神に歸し、主を讃美し、私たちの救主に身をゆだねよう。

ハリストス生まる！ 崇め讃めよ！



セラフイム大主教座下は山田復活会堂の新しい歩みを祝福し、この地に根付いて多くの方々との交わりが行われようと励まされた。設計・施工にあたった業者や仮会堂設置に協力した信徒に感謝状が贈られ、教会へは記念の聖像が贈られた。祈祷後は近くの和食処で祝賀会が開催され、参加した方々は復興を果たした山田正教会のこれからの発展を祈願した。



12月2日(日)、東日本大震災で焼失した山田ハリストス正教会は、それまでの生神女福音会堂から主の復活会堂へと会堂名を変え、7年9カ月を経て立派に再建され、セラフイム大主教座下をお迎えして盛大に会堂成聖式が挙行された。

土地の嵩上げや新しい町割りなど大規模な災害対策を講じてきた山田町は、土地を所有者へ返還し、ようやく建物が建ち始めているが、立派なクーポルを頂く会堂は町のシンボルの一つである。成聖式には山田町長をはじめ、工事関係者や東北の各地の教会信徒が参加し、地震や津波で被災した教会の最後の復興としてその完成を祝った。



▲成聖の祈祷、聖水が注がれた



▲設計施工業者に感謝状が渡される



▲記念のイコンが贈られた



11月23日(金)勤労感謝の日に東北ブロック信徒懇親会が石巻市の郊外にある追分温泉で開催された。

最近では珍しい畳にお膳というスタイルでその料理の種類とボリュームに驚いた。宴もたけなわとなると席を移動して旧交を温める姿もあり、教会の近況報告も行つて和気あいあいと過ごした。

翌日は震災遺構の大川小学校校跡や再建された旧石巻会堂を訪れ、大震災の爪痕と復興を見学した。



北鹿正教会会堂修復と 中新田正教会信徒会館落成

■北鹿正教会会堂修復

11月3日(土)に北鹿正教会会堂修復成聖が行われた。建立から125年以上が経ち、東日本大震災時の被害も軽微とはいえその影響も相まって老朽化が顕著だった。教会内外の募金と教区教団の支援を得て修復工事を8月末から10月初旬にかけて行い完了した。



■中新田正教会信徒会館落成

11月25日(日)、セラフィム大主教座下をお迎えして収穫祭を行った中新田では、同時にこの日竣工した新信徒会館の成聖も行われた。大きな窓で大変明るく広々とした会館である。1月には会館に仮会堂が設置され、現在ある聖堂と旧信徒会館は取り壊される。2月からは新聖堂建立工事が始まり、来年9月に竣工する予定である。完成が待ち遠しい。





▲東日本主教々区の全管轄司祭



▲聖キリールとメホディの祭日聖体礼儀（上）、キリール総主教聖下との主教会議（下） 5/22-25

7月7日(土)と8日(日)の両日、東京本会において二〇一八年度の全国公会が開催された。本会議は7日午後1時半からダニイル府主教座下の開会宣言と訓示で始まり、宗務総局報告、各委員会報告が行われた。セラフイム大主教座下からは5月のロシア正教会訪問のことが報告された。訪問中に総主教聖下と共に自治教会である日本正教会の現況と展望について話し合い意見を交わす会議が行われたこと、また会議の内容は「覚書」として文書化し署名されたことが説明され、その内容が発表された。

公会二日目は主日聖体礼儀と教役者永眠記憶の後に午後から始まった。収支決算報告と予算案が承認された。また今年は公会の後に神品信徒の懇談会「世代交代」教会における少子高齢化への取り組み」が行われた。各教区代表が具体的な取り組みや意見を発表した。全国規模で信徒を交えて話し合う機会は貴重であり、次年度も開催することが期待されている。





2018 教区会議



▲震災永眠者を記憶するリティヤが献じられた



▲参加信徒の活発な意見交換があった懇談会

6月23日(土)、24日(日)の両日にわたり、仙台正教会において東日本主教々区の教区会議が開催された。教団・教区の活動報告並びに財務報告、次年度計画と予算案等が審議された。新教区財務には仙台のマルコ熊谷兄が就任し、会計監事及び宗務局役員は全員留任と決まった。

その後、昨年提案された懇談会「教会の世代交代」では活発な意見交換が行われ、教区会議についても報告事項や財務関連は事前の資料配布で短時間に済ませて討議により時間を割くべきとの意見も出された。これらの意見や要望はより良い教区の活動や宣教伝道にも資することであり、大変貴重な機会となった。

北海道胆振東部地震

9/6

苫小牧正教会執事長ご夫妻の被災

9月6日(木)午前3時過ぎに発生した北海道胆振東部地震は、厚真町周辺で震度7を観測し土砂崩れが発生して多くの住宅が巻き込まれ、吉野地区にお住まいだった苫小牧正教会の誦経者イオシフ中川信行執事長(62歳)、ダリヤ久美子夫人(58歳)が被災され、ご永眠が確認された。

葬儀は9月11日(火)に通夜パニヒダが、12日(水)に埋葬式がセラフィム大主教座下のご司祷により苫小牧正教会聖堂にて行われた。多数の厚真町同僚職員や親しかった信徒が集まり永遠の安息を熱心に祈った。



正教会の言葉

創世記の冒頭に、天地創造の始まりについてこのように書かれています。

「初めに、神は天と地を創造された。」

(創1…1)

次いで、光や、後に「天」と名付けられる大空など、「地」に関する創造が述べられていきますが、初めに創造された「天と地」の「天」については何も言及されていません。それでは、この「天」とは何かというと、それは「天使的な世界」であるとされています(「創世記精義(上巻)」ゲオルギイ・ウラストウ)。すなわち、時間と空間を伴う「地」

の創造の前に、非時間のうちに、時間と空間を超えた「善なる神(しん)的存在(以下、善神/ぜんしん)」が創造されたのです。また、ニッサの聖グリゴリイは善神の創造について、「まず、知性的本性の創造が他のものに先立ってなされ：それぞれの天使の権能に対して：何らかの働きが割り当てられた。」(「教理大講話」と述べています。すなわち、善神にはそれぞれに固有の役割が与えられており、この役割に基づく階級を偽ディオニシイは次のように説明しています。

第一の位階…1. セラフイム、2. ヘルヴィム、3. 宝座

第二の位階…4. 主制、5. 権柄、6. 能力

第三の位階…7. 首領、8. 天使長、9. 天使

すなわち、善神には九つの階級があり、その九番目がいわゆる「天使」だということです。ですから、天使という言葉が善神全体を指すのであれば、セラフイムやヘルヴィムも天使と言うことが出来ますが、正確に言うと、セラフイムは「セラフイム」、ヘルヴィムはあくまで「ヘルヴィム」であり、「天使」ではないということです。

天使と悪魔

司祭 ルカ 田畑隆平

一方、「天」の創造に於いて、善神の中に神に逆らう者たちを選びました。それが、サタナ(希…サタナス、英…サタン)と魔鬼(希…ダイモン、英…デーモン)です。彼等は「神(しん)的存在」として時間を超越し、また肉体を持たない故に、事実誤認をしたり、誘惑されるということはありません。しかし、その一切曇りのない完全な自由意志によって、彼等は神に逆らうことを選びました。その方法は、悪魔(希…ディアボロス、英…デビル)が意味するところの「分裂」をもたらすことによってです。彼等は神と人、人と人の間を分裂させることによって、調和、一致、交わり、愛である神に逆らっているのです。しかし同時に、彼等は決して神に勝つことは出来ないこともまた、よく理解しています。このことは、イオフ書のサタナや、マトフエイ伝8章のゲルゲシンの魔鬼が神/ハリストスの許しの下で行動していることから分かります。すなわち、悪魔は神こそが正しく、自らの願望は決して叶わない事を知りながら、それでも敢えて神に逆らっているのです。正に的外れです。

しかし私たちは、この悪魔の誘いに敵いません。けれども神は、悪魔を支配しておられます。ですから私たちは、自らの弱さを認め、神に助けを求めましょう。正に、「貧しき者は福なり」です。

ちなみに、もし悪魔の存在を確かめたければ、祈ってみてください。どれだけ真剣に、集中して祈れるでしょうか。悪魔の業は分裂なのです……



ハリストスとヘルヴィム、セラフイム、天使ら



北海道の「キャンプだホイ！2018 in 道南」は7月31日(火)から8月2日(木)にネイパル森を会場に開催された。初日は開会祈祷に始まり、恒例のキャンプだホイ！の歌と踊りで参加者は一気に打ち解け、バーベキューを楽しんだ。

2日目は江差に向かい、旧幕府海軍の旗艦開陽丸をはじめ町内を見学、続いて立ち寄った上磯ではトマトを堪能、宿舎に戻ってからはリース作りと神父講話、青年時代に改宗した当時の体験談などを聞いた。

3日目は函館正教会へ向かい、感謝祈祷を献じ、キャンプの思い出を俳句に詠む会が行われて閉会し、皆帰路についた。



7月30日(月)、31日(火)の両日、東北ブロック修養会が一関管轄の金成と十文字正教会が担当して開催された。金成正教会に集合した参加者は聖堂にて開会祈祷、歴史民俗資料館の見学、そして会場となる花山青少年旅行村へ向かった。

旅行村ではカヌー、カヤック体験をしてバーベキューに舌鼓。子供たちのマジック披露、スイカ割、キャンプファイヤーと夏の夜の楽しい行事を存分に楽しんだ。

2日目はマインパークへ。外とは別世界の肌寒い坑道を行きながら見学した。砂金採り体験では皆一心不乱。施設内で昼食をとって解散。来年の再会を誓い合った。





8月31日(金)～9月2日(日)、釧路正教会を会場として北海道ブロック聖歌研修会が開催された。初日はスヴェトラナ山崎マートシカによる「復活祭聖歌」の講義と実技指導、釧路のエレナ笠原姉の聖歌に必要な音楽知識の講義があった。



2日目は神父による奉神礼や復活祭に関する講義、スヴェトラナ姉による徹夜祷と聖体礼儀聖歌の実技指導があった。講義の後、研修会の反省や感想などを交えた懇談会が開かれた。その後、研修会参加者全員により徹夜祷を献じ2日目の研修を修了した。

3日目は研修会参加者と地元信徒で主日聖体礼儀、続いて釧路正教会の月例パニヒダを献じ、三日間の実り多い研修会を修了した。



北海道・東北 聖歌研修会

11月23日(金)、東北ブロック聖歌研修会が石巻正教会信徒会館で開催された。今年は研修会後に東北ブロック信徒懇親会を行うという新しい企画で充実した学びと深い親交の機会となった。

聖歌研修会は午前「人を神とする新しい契約である聖体礼儀」と題する田畑神父による講義が行われた。昼食後は聖歌コースと誦経・堂役コースに分かれて2コマの講義と実技が行われた。聖歌コース午後の1コマ目は児玉神父とマートシカによる聖歌の技術的な指導、2コマ目は聖歌の実践的なグループ練習が行われた。また誦経・堂役コースでは小池神父から聖堂で聖器物の説明や司祭の所作に合せた堂役の動きを学んだ。





■北海道ブロック教会学校教師会 及び宣教会議の開催

11月17日(土)、18日(日)、函館で標記会議が開催された。胆振東部地震後行われた最初の会議の開会に先立ち、永眠されたイオシフ・ダリヤ中川ご夫妻の永遠の記憶を祈った。

会議は各教会の活動、「キャンプだホイ!」、地震体験で得た教訓、献金納入戸数の改善、聖歌譜の整備、来年度の活動予定スケジュールなどが話し合われた。また教会学校が開催されている札幌から教会学校の活動や課題などが報告された。

■東北ブロック宣教会議

9月13日(木)、一関正教会において今年度第一回目の東北ブロック宣教会議が行われた。宣教委員のメンバーの入れ替わりがあり、今回初めて全委員が集まった。会議では最初に北海道胆振東部地震について教会や信徒の被災状況が報告された。また夏季修養会の反省、ブロック信徒懇親会、聖歌研修会の要項、各種教区発刊物等の内容が話し合われた。石巻旧会堂、山田、中新田、北鹿の建設・修復工事の進捗状況についても詳細に報告された。



宣教ブックレットの発刊

東日本主教々区の宣教ブックレット3冊が発刊された。「最初の救い」はアキラ吉川輔祭の遺稿集である。「善と悪をめぐる思索より」はセルビアの聖ニコライ・ベリミロビッチの短編集。「ニコライの餘韻」は宮城県遠田に生まれ北海道に渡った中川皆志兄の遺稿集の復刻である。是非ご一読を。



石巻管轄

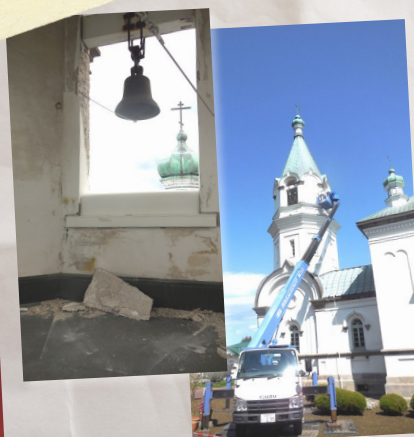
8月15日(水)午前11時より、管轄内全体の総パニヒダが石巻で行われ、管轄内全教会より30名ほどが参拝した。

祈禱後は納涼会として教会境内のカーポートでバーベキューやスイカ割をして親睦を深めた。



函館管轄

9月5日(水)の台風21号の暴風雨により、聖堂外壁の漆喰剥離の範囲が広がった。9月18-19日に高所作業車を使って応急処置的な修理を行った。本格的な修復は2年後の耐震補強工事を待つこととなる。



釧路管轄

10月21日(日)、今年の帯広集会は郊外の音更町ひびきの会館にて主日聖体礼儀が行われた。初めて利用する場所だったが、駐車場も広く使用料も安い。集会にはルーマニア出身のアディナ横山姉も初めて参拝された。



札幌管轄

9月24日(月)、秋分の日、振替休日となったこの日、札幌では敬老の行事である「はぎの会」が催された。聖堂で感謝祈禱を献じた後、会館を会場に昼食と懇談が行われた。

歌や演奏、そして恒例の婦人会メンバーによるフラダンス「涙そうそう」が披露され、楽しいひと時を過ごし、皆の健勝を祈った。



一関管轄

7月30日(火)「あきる野市・栗原市友好親善交流会」一行が金成に來会。

盛では8月14日(火)好天の下大納涼会が開かれ、おいしい料理とゲームで盛り上がった。また11月10日(土)には恒例のクリスマス・イルミネーションが男性信徒の作業で設置された。



各地のニュース

盛岡管轄

9月2日(日)、遠野では主日聖体礼儀後にペラギヤ荒川容子姉宅でバーベキューをして親睦を深めた。

11月3日(土)、北鹿では会堂修復成聖に引き続き「教会の装飾、デザイン、シンボルについて」をテーマとする文化講演会が水口神父によって行われた。新聞広告を見てきた人がほとんどで、会堂の色々な模様その他の意味を学んだ。



仙台管轄

10月20日(土)、白河では聖堂公開と併せて児玉神父による講話「教会の祈りと生活」が行われた。聖堂の内部や聖像の説明を加えながら正教の生き方の一端を紹介した。

中新田では11月25日(日)、セラフィム大主教座下とロシア正教会駐日ポドヴォリエへの赴任が決まったニコライ小野修道司祭も訪れ、収穫感謝祭と新信徒会館の成聖を行った。感謝祈禱を献じ、バーベキューとお餅、婦人会手作りのご馳走の昼食会が真新しい信徒会館内で行われた。来年の新聖堂建設には多くの方々を招いて盛大に祝いたい。



－ 宣教献金の御礼とお願い －

＋主の御名によりてご平安をお祈りいたします

皆様方のご理解とご協力を賜り、昨年度は404件2,212,000円の宣教献金が寄せられました。目標を超える御献金を賜り厚く御礼申し上げます。

今年も年末が近づき来年に向けて教区の宣教献金募集の時期になりました。下記の要領で募集いたしますので、ご協力をお願い申し上げます。

記

- 2018年度宣教献金額目標額 200万円
- 献金額 1口 3,000円 (1口以上を目安にお願いいたします)
- 献金方法 同封の郵便振替用紙に住所、所属教会名、聖名、氏名を記入しこれまで通り、最寄りの郵便局(ゆうちょ銀行)にてお手続き下さい。
- 期 間 2018年12月12日 ～ 2019年5月31日

人物消息

— 敬称略 —

(2018年5月～2018年11月)

◆洗礼「教会名・聖名・氏名・受洗日」

上武佐イウニヤ	西垣理緒	10月14日
札幌 ルカ	佐々木啓太	9月16日
函館 アントニイ松原亮太		7月15日
盛岡 アキラ	小泉 明	10月28日
マキシム	小泉 至	10月28日
中新田セラフイム早坂光矢		8月26日
ルカ	熊谷輝充	8月26日

※洗礼おめでとうございます。

◆永眠「教会名・聖名・氏名・永眠日」

釧路 マリナ	勝又サヨ	5月7日
札幌 ワシリイ	柏村一郎	5月5日
ペトル	菅原 厚	5月15日
アンフィサ大森よしゑ		5月28日
ユウステイナ佐藤幸子		8月2日
アンナ	佐藤ひろみ	8月22日
ペトル	金田信一	9月4日
苦小牧イオシフ	中川信行	9月6日
ダリヤ	中川久美子	9月6日
アニシヤ	西村栄子	3月28日
マリヤ	茂木節子	4月26日
エリザベタ小畑牧子		6月1日
パウエル	福原義正	8月2日

上磯 ソフィヤ	立花中子	6月14日
オリガ	田中キミエ	7月24日
上下堤ソフィヤ	千葉しげ子	10月21日
仙台 メラニヤ	大窪ハル	6月24日
ルキヤ	片倉とく子	7月25日
エリセイ	道家義範	9月20日
ボリス	太田 亨	10月8日
イヤコフ	安東 肇	10月19日
福島 ユリアニヤ幕田幸子		5月3日
白河 ルカ	平澤 篤	10月10日

※永遠の記憶をお祈りいたします。

◆婚配「教会名・聖名・氏名・婚配日」

札幌 ラウレンティイ平 尚人	11月24日
ノナ	後藤邦子

※婚配おめでとうございます。

